

# 特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会

## 2023年度(令和5年度) KHJ ひきこもり実態調査

### 「ひきこもり本人家族の実態と求められる支援、法案に期待すること」

発言：藤岡清人・山本洋見 共同代表、池上正樹副代表、上田理香事務局長

●実態調査の実施期間：R6.1月30日～R6.3月31日

●回答数：ひきこもり者のいる家族 466名、本人 145名

(※本人調査の145名中、現在ひきこもっている77名 過去にひきこもった経験者120名)

**家族調査 平均年齢 35.6歳 40歳以上が37% 一回目の平均ひきこもり年数 7.3年**

**本人調査 平均年齢 42.7歳 40歳以上が64.1% 一回目の平均ひきこもり年数 8.5年**

#### 【1】本人が家族以外の誰ともどこにもつながっていない実態

本人はひきこもり状態についてサポートを受けていない **70.0%**

家族以外の人とのつながりが無い **40.5%**

家族以外の人とのかかわりがある(ネットのつながりも含む) **あり 43.7%** ※別紙参照(自由記述)

【参考】家族との同居率 **84%** (家族がキーパーソン) 本人は家の中ではマイペースで行動している **86.9%**

#### 【2】家族が支援を必要としていても、支援が継続しない実態

あなた自身(家族)にとって支援が必要 **78.3%**

家族の支援利用状況：継続利用 **38.6%** 継続利用していない **61.4%** (途絶 **13.1%**含む)

#### 【3】本人が支援を必要としていても、支援が継続しない実態

本人にとって支援が必要 (家族調査 **72.7%** 本人調査 **84.8%**)

本人の支援・医療機関等の利用状況：継続利用 **26.6%** 継続利用していない **73.4%** (途絶 **18.2%**含む)

本人が医療を必要としていても、受診は難しい **37.6%** ※受診困難者には訪問型医療の充実を望む人が多い。

#### 【4】制度の狭間で福祉サービスが利用できない実態※別紙参照

障害福祉サービスの利用率 **20.3%** (**79.7%**は利用していない。受診ができない、障害への抵抗感が要因)

#### 【5】今後拡充していくべき資源・支援 (上位5項目 いずれも5割以上のニーズ)

●親亡き後の支援(親の高齢化に伴う介護相続、8050支援など) **57.9%**

●家族支援(家族会支援) (**57.3%**) ●居場所が複数あること(選択できること) (**56.2%**)

●伴走型支援(つながり続ける支援)(**54.1%**)●相談支援(たらい廻しなく話を聞いてもらえる)(**52.8%**)

#### 【6】法案の制定で期待されること (家族調査 本人調査) 家族も本人も期待しているものは共通

●何かあったときにつなげられる社会的資源がある(家族 **68.0%** 本人 **62.1%**)

●ひきこもりは社会課題という認識が明確になること(家族 **63.1%** 本人 **66.9%**)

●障害の診断がなくても自分が受けたい福祉サービスが受けられる(家族 **66.0%** 本人 **63.4%**)

●就労を含む多様な社会参加、その人らしい生き方・幸せを実現する支援につながる(家族 **64.8%** 本人 **63.4%**)